2025 年度

SGT　活動レポート

感情を表現するパントマイムワークショップ

7 月 16 日(水)の放課後、SGT 感情を表現するパントマイムワークショップが行われました。中学生 2 名と高校生 7 名が参加しました。講師はパントマイムコメディデュオ、GABEZ(ガベジ)のヒトシさんです。GABEZ は、2021 年に行われた東京オリンピック開会式のピクトグラムパフォーマンスの『中の人』の２人として注目を集め、韓国の釜山国際コメディフェスティバルで日本人としては初めて海外アーティスト最優秀賞を受賞し、2024 年、世界最大の演劇祭と言われるスコットランドのエディンバラ・フリンジでベスト男性パフォーマー賞を受賞し、現在乗りに乗っているパントマイム・アーテイストとして世界を股にかけ活躍中のデュオです。

ヒトシさんは、静岡市出身ということもあり 8 月 23 日にグランシップで行われる GABEZ show『ライブマンガ』のプロモーションをかねて来静し、卒園された保育園を初め市内の幼稚園でパフォーマンスを行っていましたが、高校時代からの親友である本校国語科の岩崎教諭のお誘いもあり、SGT の講師として本校でパントマイムについてご指導いただくことになりました。

ヒトシさんは、この講義に参加した生徒に対して『なぜこの講義に参加しようと思ったのか』、『君たちの夢は何か』と 2 つの問いかけをしました。ヒトシさんの夢は、『夢とは何か分からないことが多い』と前置きした上で GABEZ を一生続けていくことであること、そのためには誰かを楽しませるために演じるのではなく、まず楽しいと思う自分が演じることが大切であることなどパントマイムについての熱い哲学を語ってくれました。また一度しかない人生で本当に楽しいと思うことは、自分で決断し、人に迷惑をかけないように自分で自分のやりたいことを追求していくことであるとお話されました。もしつまらないと思っていることまたは状況があれば、どうしたら面白くなるか考えることが大切であり、人生に必要のないことはないともおっしゃっていました。特に人生におけるさまざまな決断は、人のアドバイスのみに頼るのではなく、最終的に自分で決断することが大切であることを強調されていました。元ブルーハーツ(現クロマニヨンズ)のボーカル、甲本ヒロトさんのように初心を忘れずピュアな気持ちでエンターテナーとして楽しみながら人生を生き抜いている印象を受けましたが、ご本人ともお話されたことがあるとのことで人生における共通性を感じました。

こうしたお話のあと、カバンを使ったパントマイムをご指導いただきました。演劇部の生徒が多く参加していたこともあり、彼らにとっては大きな刺激となる講座となりました。写真に観られるようにカバン一つでもどう演じるかを考えさせられる場面があり、一流の講師から学ぶものはたくさんあったのではないかと思います。『感情と技術が一体となった時にパントマイムが生まれる』という言葉は演劇部の生徒たちの胸に刺さる名言となったのではないでしょうか。

「なぜこの講座に参加したのか。」「君たちの夢は、何か。」と問いかけています。

傘を使ったパントマイムの一例。押したり、引いたりする動作で傘にも槍にもロープにも見えます。

目の前に壁がある時の表現方法。指先を使い方で質感を表すのがポイントかもしれません。

手の高さを変えずに腕を横へ動かすことでより壁が前にあることが強調されます。

カバンを使ったパフォーマンス。まずは演劇部部長がお手本を見せます。

さまざまなシチュエーションを装丁してカバンがどうしても動かない様子を表現します。

奥さんを Honey と呼び追いかける旦那のカバンが動かない様子を表現しています。

抜群に上手かった中学３年生の男子生徒のパフォーマンス。パフォーマーとしての素質ありです。